

2018年  
クイーン倶楽部だより 6月号  
第184号

ERN 有限会社エコ・ライス新潟  
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100  
TEL 0258(66)0070 FAX 0258(66)0447  
URL <http://www.eco-rice.jp/>  
E-mail [office@eco-rice.jp](mailto:office@eco-rice.jp)



30年産米  
田植え



田植完了!

早生から晩生まで、5月いっぱい続いていた田植えも終わりました。そんなエコ・ライス周辺の様子をドローンで上空から撮影してみました。

もう少し苗が成長すると、青々とした田んぼが上空からでも見えることでしょう。

真ん中に見える大きな屋根の建物が社屋です。奥にうっすらと見えるのが弥彦山。東京スカイツリーと同じ高さの標高634mです。

さて、米作りではこれから草と戦う夏の作業が待っています。畔草の虫の

中には、稲の穂を食べる虫もいるため、草刈が必要なのです。秋の収穫までまだまだ作業は続きます。



春の作業まで  
終わりました!

～米作りの1年間の流れ～

- 春 土づくり→畦畔づくり→播種→代掻き→田植え
- 夏 水管理・中干し→除草→農道と畦畔の除草
- 秋 刈り取り→乾燥・調製→来年に向けた土づくり



中村 信也(なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学名誉教授。まほろば東京クリニック院長。「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者。

ドクター  
"N"の

私にも一言言わせて

その38

※ドクター…英語で博士の意味

AI (人工知能) の行方

今年三月に大学を定年退職し、東京都大田区に医院開業しました。東急池上線という五反田駅と蒲田駅間十五駅を結ぶ都会ローカル線というべき線です。三輦でのんびり走っていますが、いつも乗客が多く、五分間隔運転という山手線真つ青という線です。

最前車輦の最前席に座っていていつものように運転手交代の儀式を眺めていて、ふと未来風景が浮かび上りました。それは運転手のいないAI列車風景です。運転手のいないAI(人工知能)列車は近い将来実現するでしょう。昔、お猿の電車の絵本を見たことがあります。AIならお猿、ワンちゃんでも乗せればレトルト列車

ですが、ロボットが動かせば不気味列車となります。運転手を無人化して何が得られるのでしょうか。会社は経営改善絶大ですが、乗客は機会社会を味わうことになりません。駅員一人で改札も人もいない、歩いているのは老人ばかりだと、若人はどこに行った、の世界です。風景図です。「花はどこへ行った」という歌がありますが、すさまじい合理化により若者は社会から弾かれ、精神病院、ドラッグ・アルコール矯正所に行くことになるでしょう。

現在毎月長野の須坂に行っています。長野駅からバリバリのローカル線に乗ると通学生二杯で元気です。到着すると複数の駅員さんが出迎えて切符を受け取ります。改札を出ると、駅の駅があり、野菜、花、山菜、お菓子、靴下など何とかさんちの獲りたて商品が一杯並んでいます。商品を抱え切符売り場にもって行くと、駅員さんが清算してくれて現金払います。

これが駅の在り方なのではないかと明るい未来の見える都会の電車を夢見ています。